

令和4年度 事業報告書



社会福祉法人

素心会

目次

1	法人	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 P
2	素心学院	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2 P
	障害者支援施設（生活介護・施設入所支援・短期入所）		
3	素心デイセンター	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 7 P
	生活介護	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 8 P
	就労継続支援B型	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 9 P
4	地域支援センターそしん	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 4 P
	共同生活援助	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 4 P
	相談支援	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 8 P
	児童発達支援	・・・・・・・・・・・・・・・・	3 0 P
	放課後等デイサービス	・・・・・・・・・・・・・・・・	3 1 P
	居宅介護・移動支援	・・・・・・・・・・・・・・・・	3 3 P
	自立支援協議会	・・・・・・・・・・・・・・・・	3 4 P
	生活介護	・・・・・・・・・・・・・・・・	3 5 P

1 法人

(1) 法人の主な活動状況

令和4年度における全国の新型コロナウイルス感染は、7月～8月に第7波、12月～2月に第8波となり、各ピーク時には1日25万人以上の新規感染者が報告された。素心会においても、利用者・職員に年間で100人を超える感染があり、事業所の休業を余儀なくされたケースや30人を超えるクラスターが発生した。また、濃厚接触による利用者・職員の休業は、感染者数をはるかに上回るものであり、稼働率の減少、活動・行事の中止等大きく影響を受けた。陽性者が比較的軽症で回復したことは幸いであった。

また、令和4年度は職員不足がより深刻な問題となった。中でもグループホームは、新型コロナウイルスの影響や職員の高齢化による退職が重なり、やむを得ず居宅介護事業を休業しグループホームへ職員を異動した。施設入所支援、放課後等デイサービス、相談支援においても、職員の欠員補充が追い付かず、施設入所支援では、新規利用者の受け入れにも影響している。

(2) 実施事業

施設・事業所	種別	実施事業	
素心学院	第一種社会福祉事業	障害者支援施設	施設入所支援事業
			生活介護事業
	第二種社会福祉事業	障害福祉サービス事業	短期入所事業
			地域生活支援事業（日中一時支援）
素心デイセンター	第二種社会福祉事業	障害福祉サービス事業	生活介護事業
			就労継続支援B型事業
			地域生活支援事業（日中一時支援）
地域支援センター そしん	第二種社会福祉事業	障害児通所事業	児童発達支援事業
			放課後等デイサービス事業
		障害福祉サービス事業	生活介護事業
			居宅介護事業（令和5年2月より休業）
			共同生活援助事業（さざんかホーム）
			地域生活支援事業（移動支援→居宅介護に連動し休業）
		相談支援事業	児童相談支援事業
			指定特定（計画）相談支援事業
			大磯町基幹型相談支援事業
			二宮町基幹型相談支援事業
	市町村委託事業		大磯町障害支援区分認定調査事業
			二宮町障害支援区分認定調査事業
			二宮町・大磯町障害者自立支援協議会事務局

(3) 理事会及び評議員会の状況

ア 理事、監事、評議員	令和5年3月31日現在
理事長	萩原 勝己 素心会統括管理室長
常務理事	高瀬 尚人 素心会法人事務局長
理事	米山 勝彦 (社福) 理事長
理事	小林 倫 (社福) 理事長
理事	出縄 守英 (社福) 理事長
理事	大水 健晴 (社福) 理事長
監事	南山 利久 民生委員・児童委員会長
監事	永井 清光 (社福) 理事・施設長
評議員	坂田 泰二 会社代表取締役
評議員	土方 重治 会社役員
評議員	梓田 俊邦 (社福) 評議員
評議員	三箇 正子 元地域民生委員・児童委員並びに地域自立支援協議会会長
評議員	野谷 美恵子 前地域民生委員・児童委員会長、現同委員
評議員	木内 健太郎 居宅介護支援事業所代表
評議員	島田 哲 (社福) 地域支援センター長

イ 理事会の開催

第197回理事会 令和4年6月9日(木)

議案 第1号 令和3年度事業報告について

第2号 令和3年度計算書類及び財産目録の承認について
監事監査報告について

第3号 令和4年度第一次補正予算について

第4号 給与規程の一部改正について

第5号 第49回評議員会の招集(日時、場所、議案等)について

報告事項 ①社会福祉充実残額について(令和3年度 残額無し)

②虐待防止指針について

③理事長及び常務理事の職務執行状況について

④中期修繕計画に基づく素心学院、素心デイセンター本館及び作業等のLED
照明交換工事に向けて(入札参加資格要件等)

⑤人材確保について

第198回理事会 令和4年9月30日(金)(定款第26条第2項に基づき決議省略)

議案 第1号 福祉・介護職員等ベースアップ等支援加算等に関する制度の改正に伴う、就業規則の一部改正(案)について

第2号 福祉・介護職員等ベースアップ等支援加算等に関する制度の改正に伴う、非常勤就業規則の一部改正(案)について

第3号 福祉・介護職員等ベースアップ等支援加算等に関する制度の改正に伴う、給与規程の一部改正(案)について

第4号 福祉・介護職員等ベースアップ等支援加算等に関する制度の改正に伴う、処遇改善規程の一部改正（案）について

第5号 育児・介護休業法の改正に伴う、育児・介護休業等に関する規程の一部改正（案）について

第199回理事会 令和4年11月14日（月）

議案 第1号 神奈川県共同募金会助成に係る車種選定について

第2号 令和4年度第二次補正予算について

第3号 就業規則の一部改正（案）について

第4号 プロポーザル方式によるLED照明交換工事募集要項（案）について

第5号 第50回評議員会の招集（日時、場所、議案等）について

第6号 高額寄付の受領について

報告事項 ①令和4年度事業中間報告について（第2号議案に関連し説明）

②居宅介護事業等の休業について（第2号議案に関連し説明）

③当初予算に係る積立資産取り崩しについて

④神奈川県指導監査及び実地指導について

⑤理事長及び常務理事の職務執行状況について

第200回理事会 令和5年3月13日（月）

議案 第1号 施設整備等特別積立資産への積立について

第2号 令和4年度第三次補正予算について

第3号 令和5年度事業計画（案）について

第4号 令和5年度予算（案）について

第5号 第51回評議員会の招集（日時、場所、議案等）について

報告事項 ①プロポーザル方式によるLED照明交換工事業者の選定スケジュールの変更について

②素心学院空調設備交換工事に係る令和4年度環境省・省C02対策事業費等補助金申請の不採択分析報告について

③役員賠償保険の更新について

ウ 評議員会の開催

第49回評議員会 令和4年6月20日（月）

議案 第1号 令和3年度計算書類及び財産目録の承認について

報告事項 ①令和3年度事業報告について

②監事監査報告について

③社会福祉充実残額について

④令和4年度第一次補正予算について

⑤給与規程の一部改正について

⑥虐待防止指針について

第 50 回評議員会 令和 4 年 12 月 9 日（金）

- 報告事項 ①神奈川県共同募金会助成に係る車種選定について
②令和 4 年度事業中間報告について
③居宅介護事業等の休業について
④令和 4 年度第二次補正予算について
⑤当初予算に係る積立資産取り崩しについて
⑥就業規則の一部改正について
⑦プロポーザル方式による LED 照明交換工事募集要項について
⑧神奈川県指導監査及び実地指導について
⑨高額寄付の受領について

第 51 回評議員会 令和 5 年 3 月 27 日（月）

- 報告事項 ①施設整備等特別積立資産への積立について
②令和 4 年度第三次補正予算について
③令和 5 年度事業計画について
④令和 5 年度予算について
⑤プロポーザル方式による LED 照明交換工事業者の選定スケジュールの変更
について
⑥素心学院空調設備交換工事に係る令和 4 年度環境省・省 CO2 対策事業費等
補助金申請の不採択分析報告について
⑦役員賠償責任保険の更新について

エ 評議員選任・解任委員会の開催

なし

(4) 監事監査

実施日 令和 4 年 5 月 20 日（金）

監事 南山 利久
永井 清光

監査事項 理事の業務の執行状況及び財産の状況

監査方法 対面監査を実施した。

事前提供資料に基づき質問等の照会を行ったのち、当日は現地調査、職員による資料説明、会計に係る諸帳簿及び関係書類の確認及び幹部職員に対するヒアリングを行い、その後監事間の意見調整を経て講評を行う。

監査に使用した資料等

①事務局事前提供資料

令和 3 年度事業報告書案

令和 3 年度決算関係資料

財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援業務実施報告書

新型コロナウイルス対応（令和 3 年 8 月改定）

新型コロナウイルスに関する対応経過（令和3年度まとめ）

社会福祉法人素心会見学・ヒアリングによる報告書等

利用者預り金に関する経過報告書

②監事質問に対する事務局回答

- 監査結果
- ①事業報告は法令及び定款に従い法人の状況を正しく表示しているものと認めます。
 - ②理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
 - ③計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に処理、表示しているものと認めます。

監査講評

理事長、常務理事の指導、監督のもとに業務は良好に執行されておりました。

新型コロナウイルス感染症が長期にわたり蔓延しているにもかかわらず、管理監督者及び職員の努力により法人業務が正常にきちんと行われていました。若干の陽性者をだしましたが大きく広がることもなく正常化しましたが、日ごろの危機管理体制がきちんと機能した結果であります。また利用者の活動や交流、行事、外出等の制限が緩められるなど利用者への配慮が感じられました。

「新型コロナウイルス対応」を状況に応じて改定し危機に備える方策は大変評価するところです。

「新型コロナウイルスに関する対応経過」（令和3年度まとめ）に記載されている職員、家族、利用者、関係者等への連絡、報告等がきちんとなされていることは安心感を与える行動となっていますので、引続き危機管理対応を願います。

3年目となる新型コロナウイルス感染症を受け職員は心休まる日はないと思われまます。職員にはメンタルヘルス対策や働き方改革等の工夫で「気の休まる職場づくり」が実施されるよう十分な配慮を願います。

利用者対応として行っている「利用者預り金」に関し、不祥事が過去に発生したことが判明しました。残念なことですが、神奈川県や理事、監事等の関係者への報告、相談そして理事会にて詳細な報告が行われ、最後に法人としての対応がきちんと行われました。こうした迅速な一連の事務局対応は評価するところです。引続き会計処理に係る事務管理体制への強化を願います。

特定非営利法人よこはま地域福祉研究センターから職員育成を主軸とした報告書が提出されていますが大変内容の濃いものとなっています。第三者から見た社会福祉法人素心会への評価等は参考にすべきものでした。また現在の素心会が抱える問題点、課題を職員がきちんと認識していることは大変心強いものです。報告書意見交換会に掲げられた「10年後を見据えた基盤づくり」に向け、問題意識を職員一同もっていただき、今後も一歩進んだ法人改革への対応を期待するところです。

支援体制については、安全推進委員会において、事故報告及びヒヤリハット報告の検証や、寮内に設置された見守りカメラを活用した分析に取り組むなど、事故等の再発防止対策を講じることで、支援現場における職員の安全に対する意識向上が図られていました。相互けん制委員会では、虐待ゼロの支援を目指した取組みが検討され、職員に対する虐待防止を啓発・普及するための取組が図られていました。先般、中井やまゆり園における虐待事案が確認されましたが、引続き職員同士で互いに助け合いながらより良い支援に繋がるよう「風通しの良い職場づくり」を目指した対応を願います。

素心学院と共同生活援助（さざんかホーム）では、利用者の加齢・基礎疾患に伴う病弱者、重度者の増加が顕著となっています。環境整備及び支援体制の構築には苦慮される状況にありますが、利用者本人が望む生活を実現するための「意思決定支援」の対応を期待するところです。

(5) 県許認可・指導事務等

ア 定款変更認可

なし

イ 指導監査 令和4年11月22日

障害者支援施設 素心学院

実地指導 令和4年11月8日及び11月22日

素心学院（施設入所支援・生活介護・短期入所）

地域支援センターそしん（生活介護・児童発達支援・放課後等デイサービス）

素心デイセンター（生活介護・就労継続支援B型）

さざんかホーム（共同生活援助）

(6) 登記事項

ア 役員に関する事項

令和3年7月1日登記 理事長 萩原勝己 重任 令和3年6月19日

イ 資産総額の変更

令和4年6月20日登記 令和4年3月31日 変更 1,848,784,898円
(令和3年3月31日 変更 1,855,077,024円)
(令和2年3月31日 変更 1,852,737,217円)

(7) 新型コロナウイルスに関する対応経過

別紙「新型コロナウイルスに関する対応経過（令和4年度まとめ）」のとおり

(8) 重点事項への取り組み

重点課題	実施（完了）事項	継続 終了	
<p>人材確保・育成、組織風土づくり</p>	<p>①生活支援員、相談支援専門員、保育士等の補充</p> <p>②社会状況、法人使命、各拠点の連携等を共有する研修の実施・中堅職員の育成検討</p> <p>③キャリアパス基準の運用</p>	<p>①年間を通して採用活動を行ったが、22人/年の退職者に対し、14人/年の採用者に留まった。特に入所系事業で不足が顕著である。</p> <p>②中堅職員による基本理念の見直しと若手職員によるホームページの見直しについてプロジェクトを設置し取り組んだ。（別紙報告書）また、各拠点の課題共有・連携、法令順守を目的に課長会を設置した。</p> <p>③所属長による職員面談を実施した。</p>	継続
<p>法令順守と財務に関する事項</p>	<p>①障害者虐待防止法に係る取り組みの強化</p> <p>②予算管理と稼働率の確保</p>	<p>①虐待防止指針、身体拘束適正化指針の作成及び虐待防止委員会、リスクマネジメント推進委員会を設置した。</p> <p>②各事業費は、総務課が中心となり現場との相談・調整を重ね、計画的に執行された。稼働率は、素心学院、さざんかホームにおいて顕著に下降、素心学院では新規利用者の受け入れも進めているが、高齢化による退所の速度が上回った。</p>	継続
<p>土地・建物・設備等</p>	<p>①修繕及び業務等省力化計画の実行</p> <p>②地域支援センターそしん東側入り口橋梁の改修</p> <p>③さざんかホームの再整備</p> <p>④素心会有縁の霊墓地</p>	<p>①素心学院空調設備交換工事及び素心デイセンター外壁塗装・屋上防水工事を実施。素心学院及び素心デイセンターLED照明交換工事は、工事業者指名プロポーザル手続き。</p> <p>②令和4年11月1日着工、令和4年12月29日竣工</p> <p>③建設候補地の該当なし。神奈川県障害サービス課に全体計画について説明</p> <p>④令和4年6月法人移管</p>	<p>継続</p> <p>終了</p> <p>継続</p> <p>終了</p>
<p>サービスの質</p>	<p>①新型コロナウイルス感染防止対策の継続</p> <p>②地域生活支援拠点の実施</p> <p>③放課後等デイサービスにおける、目的、基本的な取組等の再構築と共有</p>	<p>①ワクチン接種の実施（4回目令和4年6月、5回目令和4年12月）及び新型コロナウイルス感染症にかかる療養機関等の整理</p> <p>②短期入所は再開するものの新型コロナウイルスの影響もあり進展できていない。</p> <p>③次年度に継続</p>	<p>継続</p> <p>継続</p> <p>継続</p>

	④保育所等訪問支援事業の検討 ⑤記録用カメラの増設	④次年度に継続 ⑤次年度に継続	継続
ガバナンス、 情報、ネット ワーク	①理事会等における横断的かつ時宜に かなった情報共有の工夫 ②大磯町・二宮町への積極的な協力 ③協会等への職員の派遣	①新型コロナウイルス感染防止等対応状況 の報告。事業の実施状況の報告。 ②神奈川県警察署協議会委員、こども子育て 会議委員、地域ケア会議委員、要保護児童 対策協議会委員、大磯・二宮安全運転管理 者会事務局、大磯町危険物安全協会理事 ③・神奈川県知的障害施設団体連合会入所施 設部会部会長、神奈川県民間知的障害施設 共同会	継続
社会福祉充実計画への取り組み（具体的な地域貢献事 業への取り組み）		非該当	継続

（９）委員会活動状況

新型コロナウイルス感染症の影響により、会議や研修会の開催に影響を受けた。

名称	開催数	主な活動状況
防災対策委員会 (消防法令他)	会議 4 回	引き続き、BCP（災害時事業継続計画）及び BCP 別冊の検証・更新を進め ライフライン確保マニュアルの検証を中心に、防災用備蓄品リストの確 認、不足品等の補充を実施した。
衛生委員会 (労働安全衛生法、就業 規則、衛生委員会規則)	会議 2 回 回覧 2 回	1 労災について 報告は 3 件 ①支援センター：子供を抱き抱えた際、左わき腹を痛めた ②素心学院：ふらついた利用者を支えた際、転倒し左足下腿打撲 ③デイセンター：興奮している利用者を制止した際、小指亀裂骨 2 過重労働について（月 45 時間以上） 報告は 8 件 グループホーム：職員退職に伴い補充がうまくいかない中、本人了 解のもとやむを得ず勤務 3 各事業所巡回報告（働きやすい職場環境づくり） 特に報告なし 4 健康管理について（健康診断、メンタルヘルス、腰痛 等） ①新型コロナウイルス感染症の影響で予定しても実施できなかつ た定期健康診断を 10 月に実施した。健診結果により就業制限の 必要な者はいなかった。 ②平成 28 年度からメンタルヘルス対策の一環として義務付けとな った「ストレスチェック」を 11 月全職員対象に実施した。 対象者 141 人 回答者 131 人 回答率 92.9%

		<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>令和4年度</td> <td>令和3年度</td> <td>令和2年度</td> <td>令和元年度</td> <td>平成30年度</td> </tr> <tr> <td>ストレスが高い</td> <td>17.6%</td> <td>12.0%</td> <td>15.0%</td> <td>8.9%</td> <td>14.5%</td> </tr> <tr> <td>やや高い</td> <td>20.6%</td> <td>26.1%</td> <td>21.8%</td> <td>21.5%</td> <td>17.4%</td> </tr> <tr> <td>中程度</td> <td>29.0%</td> <td>31.0%</td> <td>28.6%</td> <td>32.6%</td> <td>34.1%</td> </tr> <tr> <td>低い</td> <td>28.2%</td> <td>26.8%</td> <td>27.1%</td> <td>32.6%</td> <td>29.7%</td> </tr> <tr> <td>評価不能</td> <td>4.6%</td> <td>4.2%</td> <td>7.5%</td> <td>4.4%</td> <td>4.3%</td> </tr> </table> <p>③新型コロナウイルス感染症の影響で理学療法士による腰痛体操は実施できなかった。</p> <p>5 その他</p> <p>①新型コロナウイルスの影響もあり委員会の開催については2回、その他定期的を開催することはできず、前年度同様、月次の議題内容に沿って各事業所と連絡を取りながら議事録を供覧する形で情報の共有を図った。</p> <p>②新型コロナウイルス対策については、前年度に引き続き、法人の「新型コロナウイルス対応マニュアル」に基づき、各事業所感染防止に努めた。ワクチン接種については、7月に4回目、12月に5回目の接種を完了した。</p> <p>③平成27年度より（社福）福利厚生センター「ソウェルクラブ」に法人負担で全職員加入し、福利厚生の充実を図った。</p> <p>④新型コロナウイルス感染症の影響で、AED研修会は予定したものの実施に至らなかった。（3年間実施できず）</p>		令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	ストレスが高い	17.6%	12.0%	15.0%	8.9%	14.5%	やや高い	20.6%	26.1%	21.8%	21.5%	17.4%	中程度	29.0%	31.0%	28.6%	32.6%	34.1%	低い	28.2%	26.8%	27.1%	32.6%	29.7%	評価不能	4.6%	4.2%	7.5%	4.4%	4.3%
	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度																																	
ストレスが高い	17.6%	12.0%	15.0%	8.9%	14.5%																																	
やや高い	20.6%	26.1%	21.8%	21.5%	17.4%																																	
中程度	29.0%	31.0%	28.6%	32.6%	34.1%																																	
低い	28.2%	26.8%	27.1%	32.6%	29.7%																																	
評価不能	4.6%	4.2%	7.5%	4.4%	4.3%																																	
<p>研修委員会 （障害者総合支援法・事業等の人員、設備及び運営に関する基準・各運営規程・素心会研修規則）</p>	<p>会議7回</p>	<p>1 職員の資質、専門性の向上を図るため、研修規則・研修要項に基づき次の研修を実施した。</p> <p>2 当年度の研修</p> <p>（1）基礎研修</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知的障害の特性と知的障害福祉の歴史</td> <td>令和4年6月22日</td> </tr> <tr> <td>倫理・人権</td> <td>令和4年9月16日</td> </tr> <tr> <td>感染症とてんかん</td> <td>令和4年10月12日</td> </tr> <tr> <td>自閉症</td> <td>令和5年2月17日</td> </tr> <tr> <td>リスクマネジメント</td> <td>令和5年3月10日</td> </tr> <tr> <td>記録・接遇</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>介護技術</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>ダウン症・高齢化</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>制度</td> <td>中止</td> </tr> </tbody> </table>	内容	実施日	知的障害の特性と知的障害福祉の歴史	令和4年6月22日	倫理・人権	令和4年9月16日	感染症とてんかん	令和4年10月12日	自閉症	令和5年2月17日	リスクマネジメント	令和5年3月10日	記録・接遇	中止	介護技術	中止	ダウン症・高齢化	中止	制度	中止																
内容	実施日																																					
知的障害の特性と知的障害福祉の歴史	令和4年6月22日																																					
倫理・人権	令和4年9月16日																																					
感染症とてんかん	令和4年10月12日																																					
自閉症	令和5年2月17日																																					
リスクマネジメント	令和5年3月10日																																					
記録・接遇	中止																																					
介護技術	中止																																					
ダウン症・高齢化	中止																																					
制度	中止																																					

		<p>(2) 実践研修 令和5年5月に延期</p> <p>(3) 基幹研修 テーマ 10年後の素心会をデザインする 進行等 特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター 参加者 ①課長・主幹・リーダー ②常勤若手職員</p> <p>①プロジェクトA (基本理念見直し) 実施日 第1回 令和4年 6月16日 第2回 令和4年 7月14日 第3回 令和4年 7月27日 第4回 令和4年11月21日 第5回 令和5年 1月23日 第6回 令和5年 2月20日 第7回 令和5年 3月29日</p> <p>②プロジェクトB (ホームページリニューアル) 実施日 第1回 令和4年 9月 8日 第2回 令和4年10月 5日 第3回 令和4年11月17日 第4回 令和5年 3月15日</p> <p>内容 別添報告書のとおり</p> <p>(4) 外部研修 施設・事業所ごとに実施。実績は各事業所の報告にて。</p>
<p>虐待防止委員会 (障害者総合支援法・障害者虐待防止法・事業等の人員、設備及び運営に関する基準)</p>	<p>会議1回</p>	<p>1日時 令和4年10月17日(月) 10時より12時 2場所 素心学院 地域交流室 3出席 萩原理事長 高瀬常務理事 長谷川施設長 小野田所長 鈴木所長 川崎課長 第三者委員 中野弁護士 岩本社会福祉士</p> <p>4議案 (1) 社会福祉法人素心会の事業実施状況及び苦情等に関する状況報告 (2) 虐待防止指針及び虐待防止委員会について</p>
<p>リスクマネジメント推進委員会 (障害者総合支援法・障害者虐待防止法・事業等の人員、設備及び運営に関する基準・素心会利用者の安全に関する規則)</p>	<p>会議5回</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、次の通り可能な範囲の活動となった。</p> <p>1 法令順守と安全推進強化月間の取り組み 啓発ポスターの作成 各職員会議において呼びかけ</p> <p>2 虐待防止・人権擁護に関する取り組み 虐待防止に関する研修会の実施(指針の読み合わせと意見交換) 職員セルフチェックリストの作成 他所における虐待事例の共有 等</p>

		<p>4 利用者の安全に関する取り組み ヒヤリハット報告書の集計と報告 事故報告書の集計と検証 等</p>
広報委員会	会議 9 回	<p>素心会が運営する事業全体に関する情報について、関係者・関係各機関をはじめ広く社会全般に提供し、障害者と福祉現場への理解と協力を求めることを目的に活動している。</p> <p>1 広報誌「そしん」編集、発行 69号 令和3年7月発行(900部・カラー6ページ) 70号 令和3年12月発行(900部・カラー6ページ)</p> <p>2 素心会ホームページ ・トピックスの随時更新</p> <p>地域支援センターそしん:神奈川県共同募金会様より送迎車両「日産リーフ」の助成金のお礼。法人:プロポーザル方式による LED 照明交換事業者の募集について。素心学院:クリスマス会と餅つきを開催の報告。素心デイセンター:外壁塗装工事が完工の報告など。</p>
給食委員会	会議 6 回	<p>委託業者である(株)一富士と素心会とで、各拠点における利用者状況を踏まえ次の検討を実施した。</p> <p>①献立について ②行事食の内容・実施方法について ③刻み、アレルギー等食事の提供形態について ④新型コロナウイルス感染防止対応について ⑤残食について ⑥食材費の高騰への対応について ⑦その他</p>

2 素心学院

(1) 概要

2022年度（令和4年度）も前年度に引き続き、利用者・職員の安全安心を最優先に、新型コロナウイルス感染症対策に重点をおいた一年になったが、寮別を基本とした日中活動の再編を行い、通常時の全体行事、感染者減少時の個別外出等できうる限り積極的に実施することに努めた。

一方今年度も利用者の加齢・基礎疾患に伴う長期入院者・転院退所者の増加がさらに一層著しく、疾病による入院者・通院者・退所者対応に苦慮することとなった。疾病にともなう逝去者、疾病に伴う退所者が3名となり、2名（男性1名女性1名）の新規入所者があったものの、定員充足にはいたらなかった。

また、現場職員の懸命な感染症対策にもかかわらず、年明け1月から男性寮にて利用者32名・職員6名のクラスターが発生した。基礎疾患がある1名の入院者が出たものの、大事にはいたらなかった。

(2) 出身地別入所状況（令和5年3月31日 現在）

県 域	横 浜	川 崎	東京 他	計
58人	4人	3人	2人	67人

(3) 年齢構成（令和5年3月31日 現在）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男	0	2	0	11	7	14	5	1	40
女	0	1	3	8	4	4	4	3	27
計	0	3	3	19	11	18	9	4	67

平均年齢 56.3歳

(4) 入退所状況

退所者	市町村	退所日	退所理由
71歳 男性	平塚市	6月2日	転院
64歳 男性	秦野市	10月15日	誤嚥性肺炎・イレウスのため逝去
74歳 男性	台東区	1月19日	大動脈解離のため逝去

入所者	市町村	入所日	入所以前の所在
49歳 男性	茅ヶ崎市	10月17日	在宅
43歳 女性	平塚市	10月21日	在宅

(5) 健康管理

2022年度（令和4年度）は3年ぶりに10月24日集団検診実施（対象利用者66名）
診断結果により通院受診を実施した

毎月看護師が体重・血圧測定を実施、また各寮にて毎日定時に検温・血中酸素飽和度測定を実施した

(6) 主な入院

入院者	入院期間	疾病・治療内容	医療機関
K. I	R3. 12. 1～R4. 1. 18 R4. 1. 18～6. 2	左被殻視床出血(脳出血) リハビリ・退所	東海大学伊勢原病院 伊勢原協同病院
W. R	R4. 6. 3～6. 10	慢性気管支炎	平塚市民病院
I. A	R4. 10. 15	誤嚥窒息にて逝去	東海大学大磯病院
S. K	R4. 10. 25～10. 27	子宮筋腫手術	平塚市民病院
M. K	R4. 11. 27～12. 2	右眼球破裂手術	東海大学伊勢原病院
S. A	R5. 1. 12～1. 26 R5. 1. 26～2. 6	新型コロナウイルス肺炎 リハビリ	東海大学大磯病院 厚木佐藤病院
T. Y	R5. 1. 19～2. 3	総胆管結石	東海大学大磯病院
K. F	R5. 1. 19～1. 31	てんかん発作	東海大学大磯病院

(7) 日中活動の状況(新型コロナウイルス感染症対策のためグループ再編し寮別にて実施)

ア 活動種目

鈴の組立・ピーナッツの殻むき・木工・海岸清掃・施設内清掃・音楽・運動・レクリエーション・機能低下防止・法人墓地清掃

イ 作業奨励金

毎月一律千円を支給した

ウ クラブ活動

月二回、「絵画クラブ」を設定し寮別にて絵画作成を実施した

エ スポーツ活動

サッカー・ソフトボール・バレーボールを若年層向けに寮別にて実施した

(8) 防災訓練

日時	内容
令和4年 4月22日	通報訓練及び初期消火訓練の実施
令和4年11月 9日	屋内消火栓及び消火器取り扱い訓練の実施
令和5年 3月24日	通報訓練及び初期消火訓練の実施

(9) ボランティア

新型コロナウイルス感染症対策のため施設への入館制限実施

(10) 月別利用実績数

施設入所 (定員 75 人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
4	330	310	300	310	279	270	279	210	217	217	196	217	3,135
5	330	403	384	372	403	420	417	480	496	465	420	465	5,055
6	1,350	1,364	1,320	1,395	1,395	1,320	1,390	1,347	1,375	1,372	1,253	1,395	16,295
合計	2,010	2,077	2,004	2,077	2,077	2,010	2,086	2,037	2,113	2,054	1,869	2,077	24,485

稼働率 89.4%

生活介護 (定員 75 人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
3	19	18	21	19	18	20	20	20	17	4	19	22	217
4	242	230	220	230	207	198	207	154	161	161	140	161	2,311
5	264	322	304	299	322	329	333	374	391	367	320	368	3,993
6	1,060	1,084	1,053	1,100	1,087	1,027	1,090	1,030	1,068	1,024	933	1,061	12,621
合計	1,589	1,654	1,598	1,648	1,634	1,574	1,650	1,578	1,637	1,556	1,412	1,612	19,142

稼働率 94.9%

(11) 短期入所実績 (定員 5 人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人
4	0	0	0	6	0	7	0	0	0	0	7	7	27人
5	0	4	3	0	0	0	2	1		0	0	12	22人
6	0	0	0	8	4	24	4	1	8	0	0	0	49人
計	0	4	3	14	4	31	6	2	8	0	7	19	98人

稼働率 4.4%

(12) 行事等

新型コロナウイルス感染症対策のため、原則外部行事の参加および保護者会開催について見合わせた

月	学院	地域行事	保護者会	帰宅・帰院
4	1日新年度			
5				9日～20日 面会期間
6				
7	22日ランチデイ 28日コロナワクチン接種4回目			
8				22日～9月2日 面会期間
9	22日夕涼み会			
10	24日健康診断 28日秋の芸術祭			
11	7日インフルエンザ予防接種 25日ランチデイ			
12	1日コロナワクチン接種5回目 13日クリスマス会 15日大掃除 16日餅つき			
1				
2				
3	2日成人の会			

(13) 職員研修

新型コロナウイルス感染症対策のため原則外部研修の職員派遣は中止した

実施日	場所	参加者	内容
5月11日 6月15日 7月13日 9月14日 10月12日 11月16日	素心学院(zoom)	内田・紅谷	高齢者支援セミナー
6月10日	素心学院(zoom)	丹・堀野	東京都社協新任職員研修
6月16日	平塚商工会議所	石森	サービス管理責任者更新研修
8月5日 9月2日 10月7日	素心学院(zoom)	丹・堀野	東京都社協3年目研修
11月9日	大磯プリンスホテル	丹・堀野	屋内消火栓及び消火器取り扱い訓練
11月9日 11月10日	在宅(zoom)	矢野	リスクマネージャー養成研修
11月29日 11月30日	在宅(zoom)	勝俣	強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)

*ほか、法人内基礎研修・基幹研修参加

(14) 重点事項への取り組みについて

新型コロナウイルス感染症対策実施の

重点事項(計画)	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
新型コロナウイルス感染防止対策の継続	感染症マニュアルの見直しを実施した。また感染症対策期間の備品購入について、計画的に実施し、不足品が無いように管理を徹底した。(ジアイーノの増設・抗原検査キット配布)	今年度、季節性インフルエンザの罹患者はでなかったが、新型コロナウイルスによるクラスターが発生した。さらなる拡充(備品・対応等)が必要である。	継続
地域生活支援拠点事業の実施	生活支援拠点事業の緊急短期を推進するための手続きを委員会組織にて検討した。	新型コロナウイルス感染症対策のため会議開催等ふくめ現実的な成果は得られていない。引き続き具現化を目指して検討が必要。	継続
医療的ケアの継続	事業所内2名の女性利用者に胃ろうを実施した。また認定特定行為業務従事者研修に職員を派遣、資格取得者を増員した。	指導看護師の増員・安全委員会の設置・手技確認・研修への職員派遣等、定型が確立された。	実施は継続

3 素心デイセンター

(1) 生活介護事業

ア 概要

新型コロナウイルスの感染拡大により、日中活動、年間行事、送迎、開所日、稼働率など多岐にわたり影響を受けた。5月2日間、7月6日間、11月4日間、合計12日間が閉所となり、稼働率は平均約81.3%で昨年度の83.7%を下回り、感染拡大した7月は71.4%11月は79.1%で、昨年度感染者が多かった2月80.8%、3月82.1%より下がった。

日中活動では班ごとの小規模なイベント（グラウンドの芝の上で玉転がし、輪投げなどのゲーム、ヨーヨー釣り、スイカ割、輪投げ、ポッチャ大会など）や七夕、ハロウィンの飾りつけ、絵馬づくりを行い、感染症防止対策を実施した上で餅つき大会、成人を祝う会や3年ぶりにバーベキュー大会を開催した。グループ外出、1泊旅行、納涼祭は中止となった。避難訓練は集合場所を数か所に分けて密にならないように工夫して震災訓練1回・避難通報訓練1回計2回実施した。

生活介護全利用者の活動として、グラウンドに250鉢のビオラ、パンジーなどを植えたプランターを設置して水やり・植え替え・プランターの移動などを行い、利用者ともに種からクロッカスやムスカリを育てプランターへ植え替えを行った。また生活1班（重度障害者支援）では、グラウンド歩行、身体機能維持訓練を昨年と同様に行い、近隣公園での歩行は週3回実施した。生活2班では絵画、機織り、陶芸、紙漉きなどを製作して、外部の展覧会に出展(4回実施)もした。生活3班では自立課題・昼食時に使用するエプロンなどの洗濯作業・機織りを行なった。

昨年度、生活介護の新規利用者は1名であり、退所された利用者は3名であった。退所された利用者のうち2名は素心学院に入所した。

イ 月別利用者状況 <定員45人>

令和5年3月31日現在

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
3	19	17	22	13	15	20	20	16	22	20	20	23	227
4	168	137	173	105	140	166	155	122	170	151	156	180	1823
5	364	311	373	213	307	352	330	286	359	330	336	385	3946
6	256	229	268	151	266	266	264	181	260	218	240	268	2824
計	807	694	836	482	685	804	769	605	811	719	752	856	8820

年平均稼働率81.3%

ウ 市町村別利用者数

令和5年3月31日現在

	大磯町	二宮町	平塚市	茅ヶ崎市	小田原市	寒川町	熱海市	計
男	11	5	13	2	3	1	1	37人
女	2	4	5	0	0	0	0	12人
計	13	9	18	2	3	1	1	47人

エ 年齢構成

令和5年3月31日現在

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男	1	4	15	12	2	2	36人
女	0	3	2	6	0	0	11人
計	1	7	17	18	2	2	47人

平均年齢 36.8歳

オ 送迎サービス利用状況

令和5年3月31日現在

コース名	車 輛	コース	乗車人数
大磯平塚コース	ワゴン車	日向岡＝高村団地＝山下団地＝西小磯	6人
大磯二宮コース	ワゴン車	赤坂台＝保線区＝中里＝橋	4人
大磯コース	ワゴン車	白岩神社＝西小磯	3人
二宮コース	マイクロバス	山西＝押切＝小船＝百合ヶ丘＝石神台	5人
平塚コース	マイクロバス	平塚駅南口＝袖が浜＝大磯駅	10人
金目コース	マイクロバス	明石町＝追分＝岡崎＝広川	11人
合 計			44人

※感染症防止対策のために茅ヶ崎方面などに別便を出すことがあった。

カ 健康管理

項 目	実施日	検診内容	被検査者	実施機関
総合健康診断	10月5日	身長 体重 血圧 視力 聴力 聴打診血液検査 心 電図 尿検査 胸部X-P	37人	寒川病院
歯科検診	中止			
インフルエンザ	11月22日	希望者のみ1回接種	29人	寒川病院
腫瘍マーカー	10月5日	希望者のみ	30人	寒川病院
新型コロナウイルス ワクチン	7月28日	希望者のみ4回目接種	35人	八重咲診療所
新型コロナウイルス ワクチン	12月1日	希望者のみ2回目接種	34人	八重咲診療所

* 日常の健康チェックは看護師が毎月体重及び血圧の測定を実施し各家庭に報告をした。

キ 日中活動の状況

①活動種目

牛乳パックの手漉き紙製品の製作、機織り、花壇の整備、事業所間文書配達、ペットボトルラベルはがし、芸術活動、自立課題。

②作業奨励金

毎月一律千円を支給した。

③運動

近隣公園への歩行及びグラウンド歩行。

④クラブ活動

内 容	備 考
絵画クラブ（第1・3・5月曜日午後）	クラブは、他の活動と平行して実施した。 講師または担当職員を中心に行った。 利用者の参加は希望制。
書道クラブ（第2または4月曜日午後）	
音楽Aクラブ（第2・4火曜日午後）	
パーカッションクラブ（毎週水曜日午後）	
陶芸クラブ（毎週木曜日午前）	
音楽Bクラブ（第3金曜日午後）	

⑤レクリエーション

外出・・・中止。

行事・・・成人を祝う会・餅つき・バーベキュー

(2) 就労継続支援B型事業

ア 概要

昨年度、開所した日は全てパンの製造、販売を行なった。大磯町役場の福祉ショップ「あおぼと」へは毎日販売を行なっており、その他近隣の食料品販売店へは週3回納品し、二宮町町民センターのともしびショップ「なのはな」でも月に2回販売をした。9月より、大磯町、JA全農かながわ、産業能率大学、大磯町福祉事業所の協働事業として地場産の果物を使用した湘南ゴールドクリームパン、湘南いちごクリームパン、湘南スイートポテトパイを開発した。協働開発した商品は福祉ショップ「あおぼと」他、産業能率大学校内ロビーにて9月から1月にかけて月に2回販売を行なった。10月には産業能率大学がスポンサーを行なっている湘南ベルマーレの試合会場でも販売を行った。その他、大磯町のイベント「大磯チャレンジフェスタ」での販売も参加した。

令和4年度は売り上げ目標を3,240,000円とし、工賃目標を1,900円/月アップの10,000円/月として取り組んだ。実売り上げは3,418,298円となったが、工賃は300円/月アップの8,400円/月であった。原材料全般の高騰が大きく影響した。素心学院衣類の洗濯作業は継続して実施しているが各寮の居室への返却は感染症防止対策で行ってはいない。

新規利用者は1名で退所した利用者は1名であった。退所利用者は素心学院に入所した。

イ 月別利用者状況 <定員15人>

令和5年3月31日現在

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
利用者数	266	253	301	178	265	298	283	235	238	270	283	319	3454

年平均稼働率88.4%

ウ 市町村別利用者数

令和5年3月31日現在

	大磯町	二宮町	平塚市	茅ヶ崎市	相模原市	計
男	5	3	1	2	1	12人
女	1	1	1	0	0	3人
計	6	4	2	2	1	15人

エ 年齢構成

令和5年3月31日現在

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男	1	1	4	1	4	1	12人
女	0	2	0	0	1	0	3人
計	1	3	4	1	5	1	15人

平均年齢 39.7歳

オ 送迎サービス利用状況

令和5年3月31日 現在

コース名	車輛	コース	乗車数
平塚コース	マイクロバス	大磯=平塚駅=虹ヶ浜	5人
二宮コース	マイクロバス	山西=押切=小船= 百合ヶ丘=石神台	4人
大平コース	ワゴン車	日向岡=山下団地= 西小磯=つばきホーム	1人
合 計			10人

※感染症防止対策のために茅ヶ崎方面などに別便を出すことがあった。

カ 健康管理

項 目	実施日	検診内容	被検査者	実施機関
総合健康診断	10月5日	身長 体重 血圧 視力 聴力 聴打診 血液検査 心電図 尿検査 胸部X-P	15人	寒川病院
歯科検診	中止			
インフルエンザ	11月22日	希望者のみ1回接種	14人	寒川病院
腫瘍マーカー	10月5日	希望者のみ	15人	寒川病院
新型コロナウイルスワクチン	7月28日	希望者のみ4回目接種	12人	八重咲診療所
新型コロナウイルスワクチン	12月1日	希望者のみ5回目接種	13人	八重咲診療所

* 日常の健康チェックは看護師が毎月体重及び血圧の測定を実施し各家庭に報告した。

キ 日中活動の状況

①作業種目

作業内容	作業工賃
パン作業	830,687円
洗濯作業	671,600円
リサイクル作業	16,652円
年間合計	1,518,939円

* 平均作業工賃 一人 8,439円/月

②レクリエーション

外出・・・中止。

行事・・・成人を祝う会・餅つき・バーベキュー

(3) 日中一時支援事業

感染症防止対策のために実施していない。

(4) 生活介護事業・就労継続支援B型事業共通事

感染症防止対策のために以下のように見直した。

ア 行事等

月	デイセンター	保護者との関係
4		
5	平塚事業所合同説明会 25日 歯科検診 中止	
6	実習生 6日～10日 (生活介護・就労B)	個別面談 (電話により実施)
7	七夕飾り 6月27日～7月8日 1泊旅行 中止	個別面談 (電話により実施)
8	納涼祭 中止 夏期休暇 13日～17日	
9	1泊旅行 中止	
10	1泊旅行 中止 秋のレクリエーション 中止 健康診断 5日 バーベキュー 12日 ハロウィン(玄関装飾) 12日～31日 実習生 3日～7日 (生活介護) 実習生 24日～28日 (生活介護)	
11	職場体験実習生 24日～25日 (生活介護2名)	
12	冬期休暇 31日～3日 もちつき 27日 クリスマス(玄関装飾) 1日～23日	
1	絵馬作り(玄関展示) 5日～20日 成人を祝う会 10日	
2		
3	お雛様作り(玄関展示) 2月13日～3月10日	

イ 職員研修
外部研修

	場所	参加者	研修内容
11月9日・10日	素心デイセンター (ZOOMにて受講)	横山	令和4年度リスクマネージャー養成研修課(オンライン学習)
1月25日	素心デイセンター (ZOOMにて受講)	松井	令和4年度食品衛生責任者講習会
3月14日	素心デイセンター (ZOOMにて受講)	片桐	神奈川県知的障害施設団体連合会 スタッフ部会「摂食嚥下の仕組みと 課題を抱えた方への食事支援実践」

ウ 防災訓練

実施日	訓練内容
9月20日	地震を想定した避難訓練
10月18日	火災を想定した避難訓練と通報訓練

(5) 重点事項への取り組み

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
稼働率のアップ a 新規利用者の積極的な受け入れ b 福祉事業所合同説明会への参加 c 養護学校実習生の受け入れ	a、c 実習や見学など感染症防止対策を徹底して行った。 b 事業所説明会は3年ぶりに参加した。	生活介護1名、就労継続支援B型1名新規利用者を受け入れた。	継続する。
グラウンドの有効活用 a 園芸活動の充実 b イベント等の積極的な利用 c 利用者の作業としての活用	a プランター250鉢を設置して利用者の作業として活用した。 b 班ごとの小規模なイベントと全体のイベントとしてバーベキュー大会を開催した。 c 芝刈りや除草などを行った。	プランター250鉢を活用した園芸作業は活性化につながった。しかしながら検討する余地はあり、より充足感に満ちた活動にする必要がある。	継続する。
就労継続支援B型 a パン作業の充実 b パン作業の販路拡大と看板商品の開発 c 工賃アップ	a 大磯町役場福祉ショップ「あおぼと」での販売など確実に成果は出ている。 b 農福学官の協働作業に参加して販路も広がりつつあったが、今まで以上に販路拡大する必要はある。そしんどッグ・抹茶メロンパン・塩あんバター・全粒粉パンなど新商品の開発は順調に行った。 c 利用者一人当たり300円/月アップした。	感染症防止対策の影響を考慮した上で販路を拡大する方法を模索する必要がある。 利用者の工賃は徐々に上がってはきているが、まだ十分とはいえない。	継続する。
生活介護事業 a 日中活動の充実 b 自閉症支援の検討と実践	a、b グラウンドにプランター250鉢を設置して利用者の作業として活用した。	プランター250鉢を活用した園芸作業は活性化につながったが、まだ検討する必要がある。自閉症支援に関しては生産的な作業種の模索が必要である。	継続する。

4 地域支援センターそしん

(1) 共同生活援助（さざんかホーム）

ア 概要

令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対応において、暮らしの場として通所・通勤・介護施設のデイサービス利用など多方面にさまざまな手段で往来している状況を考え、迅速に情報収集ができ対応可能な枠組の中で安心が得られるように働きかけ実施してきた。

昭和56年から平成元年までに整備された神奈川県初の生活ホームの利用者像は一般企業等に就労し生活面においても比較的自立度の高い人たちだったが、それから40年以上の時間が経過し、利用者の高齢化による病弱者、重度者の増加が顕著である。昨年12月初めに逝去された利用者においては、糖尿病の悪化に加え、狭心症・悪性腫瘍など病状の重篤な状況から看取りまでを行った。知的障害の方への医療説明は理解可能か、医療手技の判断は、決定は有効かなどと迫られ、大学病院の医療倫理コンサルテーションとして取り上げられ専門家の方々と議論が繰り広げられた。ホームの他利用者においても、医学的根拠と結び付けて診断のつけようのない状態を目前にして、意思が頭を抱えてしまう場合もある。入院にも至らずホームでの支援にも限界があり、混沌とした中で利用者も支援者も不安でいっぱいとなることも少なくない。感染リスクを意識しながら職員の体調・家庭の事情による休みや濃厚接触等の自宅待機、離職等人員不足も深刻さを増す中、職員体制の確保に追われた一年でもあった。

障害福祉サービスにおいては、比較的重度の利用者の生活の場である入所施設もあるが65歳以上の者や2号保険該当者については介護保険サービスへの移行を優先にという市町村の意向が強まっている。地域移行や共生型の名のもとに、つまり本人の状態像や介助度、支援体制とすり合わせたサービス利用からはどんどん遠くなっている現状がある。また、自己負担の発生やケアプランの担い手の変更など、入所施設へも介護保険施設へも移動しにくい状況をも生みだしている。これは、利用者本人にとっても支援者にとっても安心・安全からは孤立し心身ともに居場所を失っていくことになる。それぞれの障害特性から関係性を築くまでには時間のかかる利用者もいる。これまでの経緯や現状を踏まえ、医療や介護、福祉といった縦割りを超え調整と協働の機能をfullに発揮すべき時なのだと思われる。スローガンが先行し他人事となってしまうがちなほど、ホーム利用者の高齢化、重度化は進み続けているが、日々の営みの中で予防的・消極的な対応ばかりではなく、少しでも活力につながるように就労メンバーの慰労のミニバーベキューやハロウィンでの仮装訪問、クリスマスには揚げたて天ぷらパーティーなどささやかな楽しみを模索する足跡を残そうとした一年でもあった。

そのような中、令和4年度も以下の対応を重点的に行った

①利用者の高齢化・重度化に伴う環境整備及び支援体制について

- ・2階居室から1階居室への移動　　＜歩行困難者への見守り及び安全な動線の確保
- ・地域支援センターそしんにおける入浴サービス　（特殊浴槽・バスラックの使用）
- ・腎臓病食・カロリー制限食・ペースト食・アレルギー除去食への対応
- ・看護師によるインスリン自己注射支援・骨粗しょう症対応のテリボン接種
- ・新型コロナウイルス等感染防止の強化・定期的な検査の実施

②防災対策

- ・消防法改正への対応
- ・防災備蓄品リストの見直し・更新
- ・専門業者による消防設備点検

③ホームスタッフの確保・育成、職員研修体制の確立

- ・ホームページ、広告等による積極的な募集（なかなか効果が得られない状況）
- ・報告・連絡・相談の徹底（スタッフ会議は実施できなかつたため引き継ぎ文書にて）

④建物の老朽化改善について

- ・疾病・高齢者・重度者への対応、65歳問題等中期計画において根本的な方向性の確認、早急な整備を実現する
- ・想定される災害時のリスク回避（現状における危険個所の抽出と手当て）
- ・グループホームのあり方検討（プロジェクトとして実施できず担当者会議にて意見徴収）

イ 月別利用実績（定員 29 人 現員 24 人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2	60	62	60	62	62	60	31	30	31	31	28	31	548
3	147	152	142	155	122	149	155	150	152	182	173	186	1,835
4	150	151	150	124	116	120	124	120	122	87	88	93	1,445
5	150	155	120	124	124	150	124	120	62	61	89	93	1,372
6	231	214	270	310	334	300	341	330	377	372	313	341	3,733
計	738	734	742	775	758	749	775	750	744	733	695	744	8,937

稼働率 84.2%

ウ 出身別利用者状況

県域（政令市を除く）	横浜市	川崎市	東京都	計
17人	1人	1人	4人	23人

エ 年齢構成

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男	0人	1人	6人	3人	7人	0人	17人
女	0人	0人	2人	1人	2人	1人	6人

平均年齢 64.8歳

オ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男	0人	1人	5人	2人	1人	8人	17人
女	0人	0人	1人	1人	2人	2人	6人

介護保険認定受給者 3名（要介護3 要介護3 要介護5）

カ 健康

毎月の体重測定、毎日の検温、血圧測定・パルスオキシメーターによる酸素飽和度の測定も

実施し、疾患の早期発見、早期治療、重症化防止に努めている。新型コロナウイルス等感染症予防対策の徹底により1年間を通して罹患者は最小限に留め、周囲への拡大、重症化も回避できている。手指消毒・除菌水・マスク・空気清浄機はもちろん食席も対面にならぬよう距離をおく、時間をずらすなど継続的に行っている。ゴーグル・シールド・ガウン・手袋等は常備し体調管理チェックシートの実施など管理体制も徹底している。また、就労等で外との接触が多い利用者については定期的に医療用抗原検査、PCR検査を実施している。通院については、それぞれの主治医と受診方法や頻度を決めており、医療との連携もスムーズに行うことができた。健康診断については、感染症の関係から設定が困難ではあったが10に実施できた。インフルエンザの予防接種、新型コロナのワクチン接種(5回目を12月1日に)については全員終了している。

キ 就労・通所状況

令和5年3月31日現在

	性	年	事業所名	内容		性	年	事業所名	内容
1	男	71	スタジオクーカ	創作活動等	13	男	55	プラスモア・素心デイ	洗濯・畑他
2	男	77	地域支援センターそしん	創作活動等	14	男	52	リネックス(有)	不燃物処理
3	男	78	地域支援センターそしん	創作活動等	15	男	44	大磯エコセンター	不燃物処理
4	男	58	柳川乳業	配送仕分	16	男	51	素心デイセンター	洗濯
5	男	71	悠々苑	高齢デイ	17	女	65	素心デイセンター	洗濯
6	男	52	素心デイセンター	洗濯等	18	女	74	地域支援センターそしん	創作活動等
7	男	77	素心学院	外注作業	19	女	60	素心学院	環境整備
8	男	74	地域支援センターそしん	創作活動等	20	女	88	さざれ石ケアセンター	高齢デイ
9	男	75	地域支援センターそしん	創作活動等	21	女	49	素心デイセンター	パン・洗濯
10	男	52	㈱第一三共ハピネス	商品梱包	22	女	73	地域支援センターそしん	洗濯作業
11	男	63	素心学院	外注作業	23	女	48	素心学院	創作活動等
12	男	63	素心学院	外注作業					

ク 入院状況

性別	年齢	期間	病名	入院先
男	51	令和4年4月13日 ～令和4年4月24日	新型コロナウイルス感染	平塚市民病院
男	77	令和4年8月1日 ～令和4年12月5日逝去	糖尿病の悪化：腎不全 大腸がんの精査	東海大大磯病院
男	52	令和4年12月13日 ～令和4年12月15日	全身麻酔にて虫歯治療	東海大大磯病院
男	63	令和5年3月7日 ～令和5年4月3日	左大腿骨転子部骨折	済生会 湘南平塚病院
男	78	令和5年3月30日 ～現在も入院中	てんかん 悪性症候群	研水会 平塚病院

ケ 入退所状況

令和4年12月5日 78歳 男性 腎不全により逝去

コ 避難訓練

新型コロナウイルス感染症の関係よりグループホームにおいて訓練を実施。(防災行政無線による訓練はできず)各ホームにて防災備品・備蓄食料のチェック・補充を行い、緊急連絡・指示マニュアルの確認を行った。

月 日	ホーム名	参加人数	内容
7月28日	かもめホーム	4人	津波を想定した避難訓練
7月28日	さざんかホーム	5人	火災を想定した避難訓練
7月28日	つばきホーム AB	10人	火災を想定した避難訓練
7月28日	シーベルホーム	4人	火災を想定した避難訓練
2月1日	かもめホーム	4人	津波を想定した避難訓練

サ 重点事項への取り組み

重点事項 (計画)	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
新規利用者の獲得	関係機関より情報収集	在籍利用者の状況・住環境を総合的に判断し欠員の補充には至っていない	継続
ホームスタッフの確保・育成	求人広告等での募集 生活支援員・世話人の研修	世話人の高齢化もあり採用するも退職数に追い付かない 研修は実施できず書面にて啓発	継続
利用者の高齢・重度化に伴う環境整備等および支援体制について	ADLに応じ住空間の設定 福祉用具の導入(低床ベッド) 離床センサー・ナースコール等の設置 緊急連絡マニュアルの整備	今できる最大の配慮・手立ては行っている。(緊急度の優先順位において療養型への移行を進めることや介護認定の相談・依頼を行う)	継続
新型コロナウイルス感染症拡大防止対応の徹底	感染予防マニュアルに基づき適切な対応の徹底 必要な検査での医療精査	環境設定、衛生用品の充足、予防対応・手技の確立・徹底	継続
後見人制度のすすめ	介護施設への移行・入院手続き・契約等で必要となり利用手続きを行う	援護の実施元の協力も得て親族調査を行うが、次々と難題が立ち上がる。申し立ての形態から検討。	追加

(2) 相談支援

ア 概要

相談支援事業は、引き続き大磯町基幹相談支援事業、二宮町基幹相談支援事業の受託と障害児者の特定相談支援、サービス等利用計画・障害支援区分認定調査を実施した。新型コロナウイルス感染拡大予防に際し、相談支援の実施の手法や情報の取り扱いなど顔のみえる距離でのコーディネートが難しい状況が続いた。止まることのない、そして更に牽引して起こるニーズに対し相談支援体制を引き続き模索した一年でもあった。相談件数の増大、相談内容の複雑化の中で相談員数、対応時間、対応方法、社会資源の不足感は継続的に高まっている。地域に特定相談支援事業所が増えたものの、この状況下において地域事情の共有、制度における共通認識等の確認の場を持つ機会も遠のき、基幹相談支援センターとしてコントロールタワーの役割は十分果たすことができない状況を前に課題の山積であった。ネットワーク形成もオンラインに留まり、共感や共有がしづらいなどタイムリーな支援につながりにくく課題が浮き彫りになったことも事実である。クライアントの発信と受け手の相談支援者のキャッチに差異が生じやすくニーズに対する具体的な支援が叶わない場面も多くみられた。また、医療的ケア児支援法が制度化されたことでインクルーシブな本人・家族・地域支援を求められてきている。社会情勢を反映して複合かつ多様な課題が後を絶たない中、このことに我々は引き続き量的、質的な対応力を高められるよう根本的な地域の相談支援体制の在り方、調整・連携について大磯町・二宮町の両町とも継続的に検討する場をもっている。包括ケアシステムの構築により地域風土の形成・継承について具体的な取り組みの重要性を確認してきている。

イ 相談件数

		実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
大磯町	障害者	407	79	5	189	101	54	8	6
	障害児	115	10	3	71	12	50	3	2
	合計	522	89	8	260	113	104	11	8
二宮町	障害者	395	87	8	181	90	58	7	2
	障害児	122	13	4	71	8	54	2	4
	合計	517	100	12	252	98	112	9	6
総計		1,039	189	20	512	211	216	20	14

ウ 支援内容

	福祉サービスの利用等	障害や病状の理解に関する	健康・医療に関する	不安の解消・情緒安定	保育・教育に関する	家族関係人間関係に関する	家計・経済に関する	生活技術に関する	就労に関する
大磯町	1918	386	449	738	498	401	119	69	292
二宮町	1886	431	485	773	502	369	146	44	288
合計	3,804	817	934	1,511	1,000	770	265	113	580

	社会参加	権利擁護	その他	合計
大磯町	107	65	44	5086
二宮町	163	81	35	5203
合 計	270	146	79	10,289

前年度合計 10,243

エ 支援方法

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支 援会議	関係機 関	その他	計
大磯町	313	189	101	3902	91	213	255	22	5,086
二宮町	309	201	102	4010	86	258	228	9	5,203
合 計	622	390	203	7,912	177	471	483	31	10,289

オ サービス等利用計画・障害支援区分認定調査

成人	計画数	モニタリング数	児童	計画数	モニタリング数
大磯町	108件	107件	大磯町	69件	54件
二宮町	108件	129件	二宮町	70件	51件
その他	5件	7件	その他	0件	0件
計	221件	243件	計	139件	105件
前年計	223件	239件	前年計	129件	127件

カ 障害支援区分認定調査

障害支援区分認定			
大磯町	59件	二宮町	49件
前年度	大磯町 59件	二宮町	64件

キ 関係機関との会議

地域自立支援協議会	圏域自立支援協議会	相談支援ネットワーク
精神保健ネットワーク会議	難病・特定疾患ケース検討会	重心関係機関連絡会
就労支援ネットワーク	職業リハビリテーション会議	母子保健メンタルヘルス会議
児童相談所連絡会議	特別支援教育連絡会議	教育委員会連携会議
要保護児童ケース会議	小児在宅ケア連絡会	小児神経学ケース会議
進路開拓会議	児童養護施設関係者会議	児童精神医学研究会
高次脳機能障害研究会	生活保護ケース検討会	神奈川県公安委員会警察署協議会
高齢・障害連携会議	地域リハビリテーション会議	地域コンサルテーション

*新型コロナウイルス感染症対策 外部会議は縮小もしくはZOOMでの開催となった

ク重点事項への取り組み<相談>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
今後の地域における相談支援体制に関する検討	事例検討および関係者での情報共有の機会を定期的に設け両町担当者との会議も継続的に行う	定期的な意見交換や情報共有の機会は有効であり、課題については解決に向けシステムの構築等につながっている	継続
有資格者の確保・育成	実務経験等該当する人材については研修を受講 現従事者については更新の手続きを確実にを行う	研修・更新手続きについては滞りなく行っているが新たに相談に従事する専門員の確保には至っていない	継続

(3) 児童発達支援（未就学）

ア 概要

令和3年度とは違い感染対策における自粛休園児童の数は少なかったが、併用している保育園や幼稚園の休園や兄弟姉妹の学校の閉鎖状況に応じお休みしたケースも多くみられた。マスクを着用できない子供も多く、また障害特性においてマンツーマン対応・密着が避けられない子供がほとんどであることから繰り返し体調管理、不良の際には（家族や周辺状況含め）発信を継続的にお願いしてきた1年であった。

- ・感覚（触れる・咬む・舐める・嗅ぐなど）としての拘りへの統合教育においては、感染予防対策をとりながらの活動となり非常にリスクが高いが早期療育の柱として機を逃すわけにはいかず慎重に実施している。

- ・交流保育やプール活動も引き続き見送っているが、公園やつどいの場への外出は頻度を減らしつつも状況をリサーチしたうえで行っている。イベント（夏祭りや運動会等）は保護者に限定し外部の方は遠慮いただき遊戯室で実施、後日動画を編集しDVD・写真等で成長を共有している。

- ・作業療法士の常勤配置により個別療育において、子ども本人への発達支援はもとより家族支援地域支援そして職員集団もスキルを身に付けていく機会となっている。また、不定期ではあるが心理職の導入もあり連動して療育体制を整備し情緒の安定を図る個別支援計画の作成・実施については、保護者や関係者から一定の成果・評価がいただけた。

イ 月別利用者状況 <定員10人>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
146	159	200	163	179	174	183	187	183	186	167	206	2,133

ウ 住所別延べ利用実績(年)

大磯町	二宮町	平塚市	合計
1,118	1,015	0	2,133

エ 年齢別延べ利用実績(年)

	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
男子	0	211	123	627	322	1283
女子	0	123	50	410	267	850
合計	0	334	173	1037	589	2,133

オ 障害別状況

A1	A2	B1	B2	精神	身体	重心	未取得	合計
109	0	555	602	0	109	0	867	2,242

カ 防災訓練

月 日	参加人数	内容
5月31日	14人	地震を想定した避難訓練
10月21日	14人	火災を想定した避難訓練
2月22日	15人	地震を想定した避難訓練

キ 重点事項への取り組み <児童発達支援>

重点事項(計画)	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
給食サービスの実施	食を営む力は生きる力 いのち 育ち 人間関係 楽しい食事の場面づくり	幼児食としての確立・嗜好 調査の未実施に課題が残る アレルギー対応・提供形態 の個別対応への協力が得られた(給食委員会で依頼)	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い 適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、 家庭・関係機関と連絡を密 に体調管理・予防策の徹底	継続

(4) 放課後等デイサービス(小学1年から高校3年)

ア 概要

令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防における学校の対応はさまざま(閉鎖の基準・日数、濃厚接触者の扱い方等)休校や授業短縮の連絡も直前にならないと入らず見通しのつかないことが多くあった。高齢者や障害者のワクチン接種が進む中、学齢期の子どもたちを対象とする接種に議論が停滞、実施に対しての保護者の考えも様々で未接種がほとんどである。サービスを他事業所と併用している児童においては、罹患状況がタイムリーに入らず危険予測がしづらい状況でもあった。適切に感染を恐れる必要性を児童本人には特性に合わせ伝え方を工夫し、家族も含め繰り返しインフォメーションしてきている。

・感染防止を徹底する中でも生活力に加えそれを駆使して楽しめる力を育てていく目標を見失わないように心掛けた。生きた教材がある地域のなかで実践を通じ学ぶことに制約はあったが設定活動に重点を置いて取り組んだ。しかし放課後等デイサービスのあり方が問われる中、アセスメ

ント・課題抽出・プログラムの構築など取りこぼしたことも引き続き多くあったことは事実だ。
 ・家族支援においては、面談の機会は少なかったが、連絡の取り方を工夫し取り組んだ。
 発達課題の大きい思春期の子どもや要保護のケースなど関係機関とも連携し進めている。
 ・地域支援はインクルージョン推進の観点からも単なる情報共有にとどまることなくつながって活動していくことを意識した。医療的ケア児や重度重複・強度行動障害児童には、看護師・作業療法士・理学療法士・臨床心理士の支援や助言を得ながら療育的アプローチを行ってきている。
 令和4年度に初めての取り組みとして<そしん市>を企画した。児童発達・放課後デイともに畑で育てた野菜や小麦・花を販売、法人内でも横断的に参加し笑顔と活気が伺われ有意義であった。

イ 月別利用者状況 <定員 20 人>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
297	372	420	340	340	386	370	365	295	341	327	391	4,244

ウ 住所別延べ利用実績(年)

大磯町	二宮町	中井町	秦野市	平塚市	横浜市	合計
1,946	2,294	0	0	4	0	4,244

エ 年齢別延べ利用実績(年)

	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	合計	合計
男子	378	792	258	90	536	16	2070	
女子	109	136	35	267	263	0	810	
合計	487	928	293	357	799	16	2,880	4,244
	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年	合計	
男子	145	245	27	160	72	119	768	
女子	151	27	106	43	200	69	596	
合計	296	272	133	203	272	188	1,364	

オ 障害別状況

A 1	A 2	B 1	B 2	精神	身体	重心	合計
436	982	683	1013	333	245	137	3,829

*児童通所（児童発達支援・放課後等デイサービス）～疾病要因～

四肢体幹機能不全、難治性てんかん、慢性肺疾患、低酸素脳症、白血病、視覚障害
 聴覚障害、股関節変形症、レット症候群、水頭症、福山型筋ジストロフィー
 プラダウィリー症候群、口蓋裂、双体性輸血症候群、脳腫瘍、心疾患などの重複がある。

カ 防災訓練

月 日	参加人数	内容
5月9日	18人	地震を想定した避難訓練
2月16日	19人	地震の避難学習

キ 重点事項への取り組み <放課後等デイサービス>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
放課後デイのあり方研究 ソーシャルスキルトレーニングの実施	役割意識やルール、約束などの決まり事を小集団でのグループワークにて行う	計画的な積み上げに至らず断続的な実施となったため根本的対策を図っていく。	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、家庭・関係機関と連絡を密に体調管理・予防策の徹底	継続

(5) 居宅介護・移動支援

ア 概要

居宅介護事業の利用については、利用実績はない。

移動支援事業については新型コロナウイルス感染拡大防止により、余暇支援や社会参加の機会としての利用希望には応えることができなかった。サービス提供はグループホームの利用者を中心機能低下防止・健康維持の観点から行っていたが、ヘルパー自身の罹患や自粛待機、生活場面において人員不足から生活支援員としての配置を余儀なくされ、支援の実施は中断となっている。マンツーマンの事業であり、兼務としての業務が出来ない職種あることもあり、ヘルパー確保に向け努力は続けますが、令和5年2月より休止としている現状である。

イ 移動支援利用実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用件数	128	136	128	129	132	124	68	24	3	1	0	0	873
利用時間	611	600	601	596	573	568	324	154	11	1	0	0	4,039

ウ 重点事項への取り組み <居宅介護・移動支援>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
職員の確保・育成に努めサービス提供体制を拡充・強化する業務マニュアルの作成	職員については、有資格者・経験者の求人を募る。サービス提供における配慮事項等(情報共有ベース)をマニュアル化する	マンツーマンの事業であるためニーズに応えきれず育成にもつながっていない 情報カードは作成済み	保留
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、家庭・関係機関と連絡を密に体調管理・予防策の徹底	終了

(6) 自立支援協議会

ア 概要

引き続き二宮町・大磯町障害者自立支援協議会事務局を受託した。令和4年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から書面開催に加え、協議会・部会ともに対面での会議を配慮しつつ行った一年であった。例年、両町の障害福祉計画を基に地域のニーズについて幅広い立場の関係者及び当事者と意見交換を図る目的で第三回部会は両町別の拡大部会として開催しており、令和4年度は災害対策と相談支援事業における地域課題というテーマで協議している。自然災害で想定されるリスクを洗い出し避難場所・避難経路・備蓄食料など情報共有を図り、相談支援事業の状況とそこから見えてくる地域事情、多様かつ複合的な課題について繰り返し意見交換を行っている。また、年間活動計画では相談支援の展開を視野に入れた事例検討会と知的障害の特性に対して理解を促進する内容の研修会の開催を予定していたが、いずれも感染症流行拡大時期と重なったため中止となった。

新型コロナウイルス感染症は、社会全体に未曾有の事態を引き起こしてきているが、地域内の各福祉事業所、関係機関においても運営上の様々な影響を与えている。こうした課題や不安についてもそれぞれの立場から報告を受け、取りまとめ共有を図っている。

イ 協議会の開催と内容

開催日	場所	内容
第1回 令和4年7月	書面開催	1 令和3年度活動報告について 2 令和4年度活動計画について 3 各事業所・機関からの報告
第2回 令和3年3月24日	大磯町立福祉センターさざれ石2階レクリエーション室	1 部会活動報告 2 令和5年度活動計画について 3 意見交換と情報提供 ・各事業所・機関からの報告

ウ 研修会・勉強会

	日時	内容
第1回		事例検討会。(新型コロナウイルス感染症流行拡大の状況を受け中止)
第2回		「知的障害の特性について」新型コロナウイルス感染症流行拡大の状況を受け中止

エ 部会の開催と内容

開催日	場所	内容
第1回部会 令和4年7月	書面開催	1 令和3年度活動報告について 2 令和4年度活動計画について
第2回部会 令和4年9月27日	大磯町横溝千鶴子記念障害福祉センター	1 情報提供と意見交換 (1) 災害時の要援護者対策等について (2) 相談支援事業等からの地域課題について (3) 部会の構成メンバーについて 2 各事業所・機関からの報告

第3回部会 (大磯町拡大部会) 令和4年12月7日	大磯町横溝千鶴子 記念障害福祉セン ター	・障害福祉計画と地域ニーズについて
第3回部会 (二宮町拡大部会) 令和4年12月21日	二宮町役場第一会 議室	・障害福祉計画と地域ニーズについて
第4回部会 令和5年2月20日	大磯町横溝千鶴子 記念障害福祉セン ター	1 情報提供と意見交換 (1) 災害時の要援護者対策等について (2) 令和5年度活動計画(案)の作成について 2 各事業所・機関からの報告 3 その他

(7) 生活介護

ア 概要

対象が高齢知的障害者や重症心身障害者であるため感染リスク・感染における重度化が心配される状況に常に怯えてきているが、罹患の拡大や影響なく過ごすことができている。少しの体調の変化も見逃さず、感染の周辺状況を迅速に情報収集し必要に応じて利用を控えていただく措置もとってきている。入浴・排泄・食事等ほぼ全てにおいて密接な介助が必要な利用者や家族のセーフティーネットとしての使命もあり、考え得る限り、できる限りの感染防止策を講じ支援を継続した1年だった。ワクチン接種は、5回目を12月1日に実施し、全員が終了している。速やかに何より当支援センターで実施できたことの安心感をどの保護者も伝えてきている。

・年間予定に掲げていた外出、バーベキュー等については中止せざるを得ず、制限を強いる中、楽しみを奪うことにもなってしまった。そこで室内でのイベントに切り替え季節を感じられるものを取り入れ、役割やつながりを感じられる活動を進めている。また、感覚に働きかける刺激を活用した関わり（香り・光・映像・音楽・温冷感等）で自己表現の手立てを模索している。唯一、今年成人を迎えた利用者を囲み、仲間達で手作りのイベントを楽しんだ。たくさんのリスクの中でも楽しみの創出など小さな気づきを形にする支援を目指してきている。

・理学療法士によるポジショニングや機能低下防止活動の実施、環境設定への助言を得ながら利用者・支援者ともに活動の目的や意味を問い続けている。

イ 月別利用者状況 <定員20人>

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
3	1	1	1	1	4	0	0	0	0	15	0	0	23
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	288	276	324	293	308	287	296	308	288	305	296	336	3,605
計	289	277	325	294	312	287	296	308	288	320	296	336	3,628

ウ 市町村別利用者数

	大磯町	二宮町	平塚市	茅ヶ崎市	伊勢原市	小田原市	秦野市	その他	計
男	1	4	0	0	0	2	1	4	12人
女	2	3	0	0	0	3	0	2	10人
計	3	7	0	0	0	5	1	6	22人

エ 年齢構成

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男	1	2	3	0	0	6	12人
女	0	7	1	0	0	2	10人
計	1	9	4	0	0	8	22人

オ 障害者支援区分

支援区分	3	4	5	6
利用者数	1	0	0	21

カ 送迎サービス利用状況

令和5年3月31日現在

コース名	車 輛	コース	乗車人数
Aコース	リフト付ワゴン車	西小磯＝国府本郷＝富士見ヶ丘	5人
Bコース	リフト付ワゴン車	石神台＝国府本郷＝国府新宿	5人
Cコース	リフト付ワゴン車	中里団地	1人
Dコース	リフト付ワゴン車	山西	2人
Eコース	リフト付ワゴン車	国府新宿＝石神台	2人
家庭送迎			6人
合計			21人

キ 健康管理

健康診断・腫瘍マーカーは令和4年10月31日に実施。

日常の健康チェックは支援員が毎日定時にて体温・血圧・SpO2の測定を実施し、各家庭看護師・課長に報告、共有をしている。また月初に体重測定を行っている。

ク 日中活動の状況

園芸・・・支援センターを花で満たすためのプランター・花壇作りとその手入れ。

陶芸・・・食器や装飾品の製作。

創作・・・年中行事に関連した飾り作り、刺繍、編み物、絵画、紙漉き。

運動・・・毎週火・木曜日の午前、遊戯室にて実施。内容はラジオ体操、トランポリンやバランスボールを使用したエクササイズ、マット運動、ボーリング、玉入れなど
個別対応にて介助歩行、階段の昇り降り、マッサージやストレッチを実施。

音楽・・・鑑賞・楽器演奏・リズム遊び・合唱・ゲームレクリエーション

清掃・・・毎週金曜日の午後に活動室内の掃除機かけ、台拭き、手すり磨き、モップがけ

ケ 作業奨励金

毎月一律千円を支給した。

コ 入浴

福祉用具や手動式入浴リフトを使用した個浴と介護浴槽による入浴の実施。ケガ等により入浴制限のある方のシャワー浴や清拭も必要に応じて行なった。月曜日から金曜日まで毎日午前と午後に分けて、1日平均6名が入浴。定期利用されている方は13名。

医療的ケアや処置のある方については、入浴場面に看護師を配置し実施している。

グループホームにおいて入浴が困難となった利用者については、状態に合わせた形態で実施。

サ レクリエーション

運動レク・・・活動室・遊戯室にてトランポリン・ゲーム・体操等を実施。

音楽レク・・・合奏・リズム活動・キーボード演奏にあわせ歌う等を実施。

外出・・・公園外出・散策等を実施。(個別・グループ外出はできなかった)

シ リラクゼーション

足浴・手浴・マッサージ・アロマセラピー・アニマルセラピー等を実施。

ス 行事

クリスマス・餅つき・展示会などを実施。誕生日・成人の祝いも行う。

そしん市として収穫物・創作品などの展示販売を実施。

セ 保護者との関係

*個別面談は書面にて実施 *保護者懇談会・給食試食会は検討するも未実施

ソ 防災訓練

月 日	参加人数	内容
10月21日	18人	火災を想定した避難訓練

タ 重点事項への取り組み <生活介護>

重点事項 (計画)	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
給食サービスの実施	安全で安心な食事提供 楽しみを感じる食事	配慮食としての確立・嗜好調査の未 実施に課題が残る	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い 適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、家庭・ 関係機関と連絡を密に体調管理・予 防策の徹底	継続

(8) 職員研修

日時	場所	参加者	内容
令和4年 9/15	Zoom 研修 (支援センター内)	山口	ICT 導入モデル事業・ロボット導入支援事業に係る研修会
令和4年 10/26	神奈川県総合医療会館	立木	障害支援区分調査員研修
令和4年 10/31 12/5 令和5年 1/16	小田原合同庁舎	大野 杉崎	相談支援専門員現任研修
令和3年 11/9 11/10	Zoom 研修 (支援センター内)	山口	リスクマネージャー養成研修

*法人内研修 <基礎研修・基幹研修・主幹課長研修>

(9) 地域への協力 (会議室・遊戯室・カフェの貸し出し)

利用団体	利用日	内容	場所	利用人数
二宮農園プロジェクト (二宮農園・子ども農園)	2回/月 日曜日	自然栽培	駐車場	15~20人/ 回 (車8台)
グリーンエネルギー湘南 (太陽光)	不定期	会議・活動	カフェ 駐車場	15人/回

*ぴあの会・みんなのカフェ・認知症カフェについては中止